

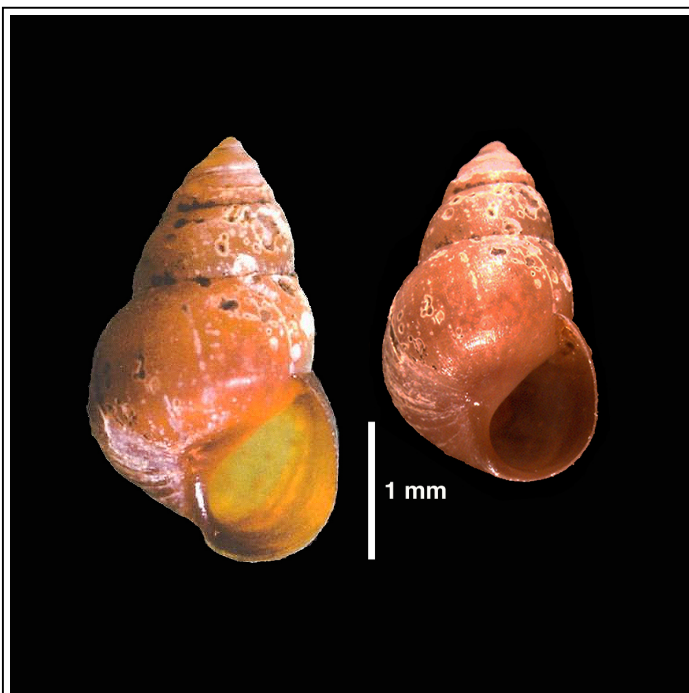
クリイロカワザンシヨウ *Angustassiminea castanea* (Westerlund)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺に分布する。県内ではヨシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 5 mm の小型種。カワザンシヨウガイ科は小型種が多く形態的にも近似しているが、本種は螺塔が高く、殻の濃い栗色が特徴である。小型の個体は、ヨシダカワザンシヨウ "*Assiminea*" *yoshidayukioi* Kuroda やサツマクリイロカワザンシヨウ *Angustassiminea satumana* (Habe) と区別が難しいが、臍孔がないことでヨシダカワザンシヨウと、足の色彩が黒褐色であることでクリーム色のサツマクリイロカワザンシヨウと区別できる。



汐川干潟, 2001年8月5日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて、約 20 カ所生息地がある。生息地では群生することが多い。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。陸奥湾～種子島にかけて分布する(福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなヨシ原湿地周辺の落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。湿度が高いときにはヨシなどにも登る。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. クリイロカワザンシヨウ, p. 46. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.

(木村昭一)